

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



December

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

December 2024 vol.128

◆ 宗円寺（大震災袋井市死亡者追悼の碑）

所在地：静岡県袋井市川井

交通：JR 東海道本線「袋井」駅北西約 1.5km

昭和 19(1944) 年 12 月 7 日、南海トラフを震源とするマグニチュード 7.9 の地震、昭和東南海地震が発生しました。今年には地震から 80 年となる節目の年です。この地震では、愛知県や三重県で強い揺れや津波により大きな被害が発生しました。三重県では、数 m から 10m 近い大きな津波が到達したとされ、県内での死者は 406 名にのぼっています。また、愛知県では、戦闘機を造っていた工場が倒壊するなどし、438 名の死者が発生したとされています。

静岡県でも、津波の影響は小さかったものの、局所的に強い揺れとなった地域があり、『昭和 19 年 12 月 7 日東南海地震の震害と震度分布』(昭和 52 年, 飯田汲事)によれば、死亡・行方不明者 295 名、負傷者 823 名、全壊家屋 6,970 棟となる大きな被害が発生したとされています。特に被害が大きかったのは、袋井市・磐田市の太田川中下流域、菊川市・掛川市の菊川中下流域の地盤の緩い地域で、住家被害から震度 7 と推定される集落は 89 か所に及んでいます。

太田川を中心とした地域には、当時 22 町村、157 集落があり、住家の全壊率は 21%に達しました。中でも、旧今井村（現袋井市今井）の全壊率は 98.5%と極めて高く、8 つの集落で住家の全壊率が 80%以上となっています。

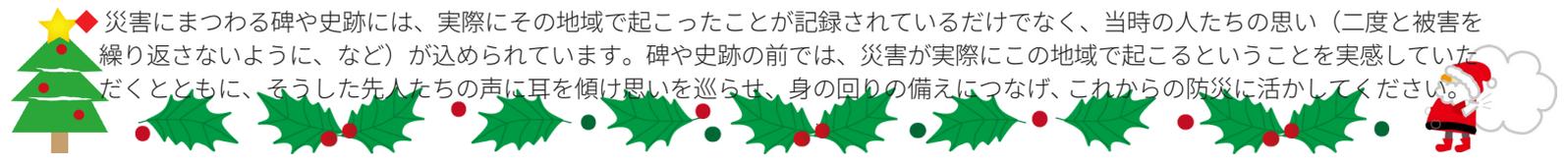
これら住家の全壊率の高い集落は、いずれも、太田川中下流域の軟弱な泥質の地質からなる沖積平野に位置し、同じ村内でも、洪積台地上の集落、丘陵地上の集落の被害は少なくなっています。

市町村別で最大の犠牲者を出した袋井町では、死者 67 名のうち、約 3 分の 2 が小学生と保育園児でした。中でも袋井町西国民学校と袋井町保育園の状況はひどく、『袋井町震災誌』には、「西国民学校に於いては時恰も授業中にて児童の惨死せる者式拾名、負傷者参拾名を出すに至る。袋井町保育園は、(中略)創立僅に三年、園舎も新築後僅かに二ヶ年にして全潰し、幼児の大部分は四、五歳なるを以て屋外にのがる、あたわず、死者二十一名の犠牲者を出し、保母木野てる氏は二人の幼児を抱きたるまま職に（原文ママ）、保母鈴木いつ子氏も負傷するなど一瞬にして、袋井町は阿鼻叫喚の巷となる。西校倒壊の為、愛児の安否を心配して、自家の全潰を忘れて駆けつける父兄、保育園にわが身の危険を省みず、泣き叫びつつ飛び来る母姉…」と、その惨状が記されています。西国民学校では、251 名の児童が校舎の下敷きとなり 20 名が犠牲に、袋井町保育園では 3 名の保母、80 名の園児が園舎の下敷きとなり 21 名が犠牲になりました。救出には父母兄弟のみならず、警防団や陸軍、袋井工業学校生徒なども駆けつけたとされています。

当時、西国民学校 4 年生だった児童は次のように記しています。「第 5 時限の習字の時間、地震が揺れ始めるとみんなが一斉に先生のいる前の方へかけだしていった。その時、先生は大きな声で『外へ出てはいけない』と出して入り口のところへ立ちふさがりました。でも、異様な出来事にみんなは外に出ようとしました。何がなんかわからないけれども外に出なければ、どうしても外に出たいという気持ちになってしまったのだらうと思います。(裏面に続く)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたかとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



先生は、この状態を爆風だと思われていたようです。当時は、太平洋戦争時代で、学校での訓練は、空襲の時の避難のことだけであり、地震については何も行われてはいませんでした。私は、地震がどんなものかも全く知りませんでした。だから後ろの方にも出入口があったのに、誰ひとりとしてそちらへは行きませんでした。早く前の方へ行った人たちは、外へとび出しましたがほとんどの人は、校舎の下じきになってしまったのです。(中略)走っている体は校舎の揺れで思うようになりません。よろよろとよろけながら、前の方の机にぶつかりころんでしまいました。その時です。『ゴウー』という音と共にあたりが急にまっ暗になってしまいました。」この児童は、机に支えられてできた床との空間により梁の直撃を免れ、救出されましたが、割れた窓ガラスの破片が体に刺さり死亡した児童や、廊下に飛び出して、直接大きな梁の下敷きになってしまった児童もあったことが語られています。

袋井市川井の宗円寺には、西国民学校で昭和東南海地震の犠牲になった児童を慰霊した、大震災袋井市死者

追悼の碑があります。碑はかつての住職が、亡くなった児童の多くが東京などから疎開してきた児童であったことなどを悼み建てられたもので、地震が発生した12月7日には、毎年、犠牲者の慰霊祭が行われています。また、袋井西小学校には、犠牲になった児童のことを忘れないようにとの思いで建てられた、西国民学校被災児慰霊碑があります。この慰霊碑は地震から50年目にあたる1994年に建てられました。袋井西小学校では、毎年12月7日に地震を体験した西国民学校卒業生が訪れ、震災の語り部として特別授業が行われています。



(上) 追悼の碑
(下) 宗円寺
写真提供：(一社) 中部地域づくり協会

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=22) もぜひ併せてご覧ください。



★ 可睡齋秋葉の火まつり

可睡齋は、応永8(1401)年開山の名刹で、秋葉の火伏として信仰を集める秋葉総本殿三尺坊大権現を祀る禅道場です。徳川家康と和尚のエピソードから「可睡齋」と称されるようになりました。秋葉の火まつりは、火の用心、無病息災、心願成就を願い、可睡齋で毎年12月15日、16日に行われます。

15日の午後3時、火防大祭大祈祷の読経からはじまり、神輿渡御の後、天狗の面を頭に杖をつき歩く人々の後を松明が進む、松明道中が執り行われます。松明を収めた後は手筒花火が行われ、続いて、炎の中にある丸太を伝い歩く火渡り修法が行われます。その後、深夜には秘法七十五膳御供式が行われ、16日0時の法話の後、奉納者にはお札と御神饌が授けられて、早朝6時には神輿還御となります。



秋葉総本殿可睡齋 HP より

～鉄道で巡る～

袋井駅は明治22(1889)年に開業したJR東海道本線の駅で、北口正面には市の観光案内所があります。冬に開催されるふくろい夜宵プロジェクトでは、北口の噴水広場がライトアップされます。袋井駅からはかつて、北に位置する森町とを結ぶ秋葉線、東に位置する藤枝とを結ぶ駿遠線の2路線の、静岡鉄道の路面電車が運行していました。



Photo AC より

●ブレイクタイム●

♪ クラウンメロン

気候温暖で肥沃な土地と豊かな清流を有する静岡県西部、天竜川以東の地域は、クラウンメロンの産地です。袋井市を中心に、4市1町において、メロン専業経営が推進され、長い伝統によって培われた高い栽培技術を活かし、国内でも屈指の出荷高を誇っています。遠州地方でメロンの温室栽培が始まったのは大正10(1999)年頃と言われ、昭和40年頃から出荷時に王冠マークのシールを貼るようになり、のちにクラウン印のメロンとして、全国にその名を知られるようになりました。



静岡クラウンメロン HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年12月)

